

旺盛な中国・ASEAN インフラ需要を取り込む海外AP事業

アスファルトプラント製造60年の技術・ノウハウの蓄積で海外のお客様のご要望にお答えし、道路インフラ事業に貢献します。

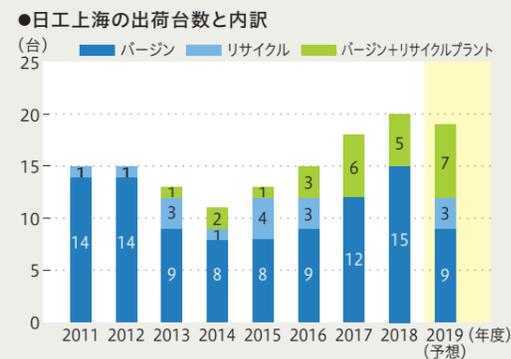
事業本部 アスファルトプラント統括営業部
海外営業部長
大橋 正広



FactとFuture

日工の海外事業は18年度で売上高の12.1%を占め、ここ数年で急速な成長を遂げました。この牽引役となる中国の日工上海は2001年に現地法人を設立、2004年に上海嘉定工場が完成し、2006年に上海事務所を開設しました。

海外の88%を占める中国は現地系企業と差別化するためハイエンドのAPに注力しています。環境規制などのニーズ高まりから、ここ数年でリサイクルプラントのニーズが高まっています。また、移動式⇒定置式のシフトもあります。中国以外のASEAN・極東ロシアは海外売上高の12%（18年度）に留まりましたが、新中期経営計画ではここを大きく伸ばす予定です。



海外事業の中期売上高予想

18年度の海外売上高38億円を中計最終21年度に61億円を目指します。このうち日工上海は生産能力上限の問題から、売上高36億円（18年度；35億円）と微増の予想ですが、タイを中心とするASEANで売上高25億円（18年度；6億円）と伸ばす計画です。ASEANでの売上を伸ばすために現在、拠点の設立を検討しています。タイでは日工製中古AP機が180台稼働（30年以上の設備年齢）していると見られ、これが新品に置き換わるタイミングを狙って拡販を進めます。中古機事業の参入も検討しています。



VOICE

現地ユーザー訪問記

中国で環境性能No.1のAP工場を建てたいと思い日工上海を選びました。

山東省で高速道路向けに舗装材を生産している。ここに工場を作る際、環境・循環・省エネ性能を重視、日工上海製を選んだ。320トンの新規合材と120トンのリサイクル合材を持つ複合プラントだが、建設から2年が経過した現在も順調に稼働している。特に、省エネ性能は優れており、定格能力通りの出力も評価が高い。中国は環境規制が厳しいので、今後は粉塵対策などの機能強化をより日工上海に進めていただきたい。

山東高速 総経理 呂彬



海外事業拡大のカギを握るのはタイでのAP需要

日工の海外展開は1967年にタイへAPを輸出したことから始まり、韓国の東亜建設との技術提携、ドイツのベニングホーエン社とバーナで技術提携など行いました。90年代までは商社経由が中心でしたが、2000年代に現地法人のある中国がメインになりました。海外事業部は2001年に設立され、2002年に北京事務所と日工上海を開設しました。現在、中国を除くとタイ、インドネシア、台湾、極東ロシア向けなどの売上が多くなっています。

中国を除く海外事業は18年度；6億円から19年度11.4億円

を予想、中計最終21年度は20億円を見込んでいます。長期では29年度に60億円を目指します。これはタイや中古機の拡販などがカギを握ります。

日工製APの中古機が180台と多く稼働し、これが新品に更新されるタイでの拡販が重要です。現在、タイは需要予測を踏まえて現地法人設立を考えており、今までの年間2~3台から10台を目指します。タイは特殊オプションが無く標準品が中心、大きさは中型です。

中国AP業界の特徴と日工上海の打ち手

中国のAPユーザーは日本の民間道路舗装会社的な企業はなく、建設が中心の国営会社です。代表製品はアスファルトプラントが都市型のNBD320や400、リサイクルプラントがTOPα120や160であり、ここ数年で大型化の傾向が窺えます。外観も重要視されます。

中国のリサイクル合材比率は10~20%（日本は75%）でリサイクル材の混入率は20~30%（同50%）と推測されますが、今後は新規合材の確保困難と生産コスト低減

のためリサイクル率上昇が見込まれます。臭いを含めた環境規制も強化される方向で脱臭装置のニーズも高まり、日工上海の業績にプラス効果をもたらさそうです。また、メンテナンスサービスは日工上海売上高の10%程度に過ぎませんが、今後は増やしていきます。

中国における強みの源泉は環境対策、定格能力確保、低故障率、耐久性、低燃費、メンテナンス性などです。一方、課題はブランド力向上、新規外注業者開拓、人員確保です。



CBD100AWD
インドネシア向け 標準 アスファルトプラント 2016年納入



NBD120MBD-AR
タイ向け 加熱リサイクル増設用 アスファルトプラント 2016年納入